

Ⅱ 作物別作付（栽培）面積

1 水陸稲（子実用）

(1) 水 稲

平成27年産水稲（子実用）の作付面積は150万5,000haで、前年産に比べ6万8,000ha（4%）減少した（表7）。

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、昭和45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図4）。

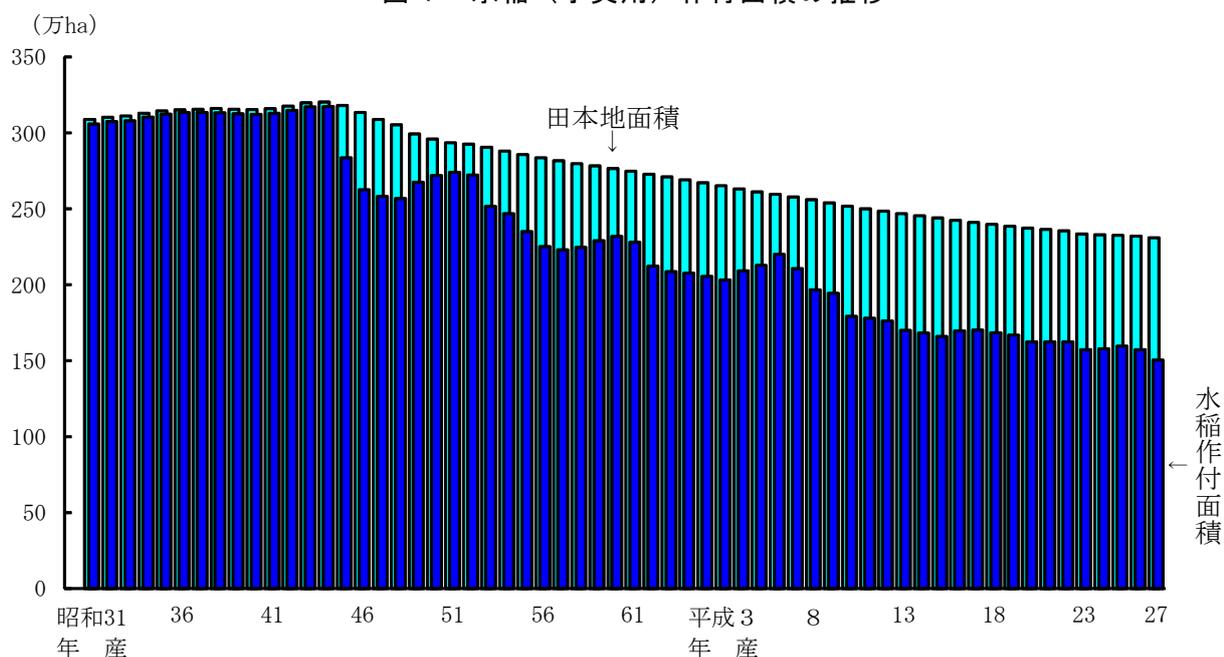
(2) 陸 稲

平成27年産陸稲（子実用）の作付面積は1,160haで、前年産に比べ250ha（18%）減少した（表7）。

表7 平成27年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稲			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,506,000	△69,000	96	1,505,000	△68,000	96	1,160	△ 250	82
北 海 道	107,800	△ 3,200	97	107,800	△ 3,200	97	-	-	nc
都 府 県	1,398,000	△66,000	95	1,397,000	△65,000	96	1,160	△ 250	82
東 北	381,300	△21,200	95	381,300	△21,200	95	x	x	x
北 陸	207,800	△ 4,700	98	207,800	△ 4,700	98	3	0	100
関 東・東山	276,300	△17,900	94	275,100	△17,700	94	1,150	△ 250	82
東 海	95,200	△ 4,500	95	95,200	△ 4,500	95	x	x	x
近 畿	105,800	△ 2,200	98	105,800	△ 2,200	98	-	-	nc
中 国	108,100	△ 4,500	96	108,100	△ 4,500	96	-	-	nc
四 国	52,100	△ 3,200	94	52,100	△ 3,200	94	-	-	nc
九 州	170,700	△ 7,500	96	170,700	△ 7,500	96	x	x	x
沖 縄	788	△ 72	92	788	△ 72	92	-	-	nc

図4 水稲（子実用）作付面積の推移



2 麦 類（子実用）

(1) 4 麦計

平成27年産4麦（子実用）の作付面積は27万4,400haで、前年産に比べ1,700ha（1%）増加した（表8）。

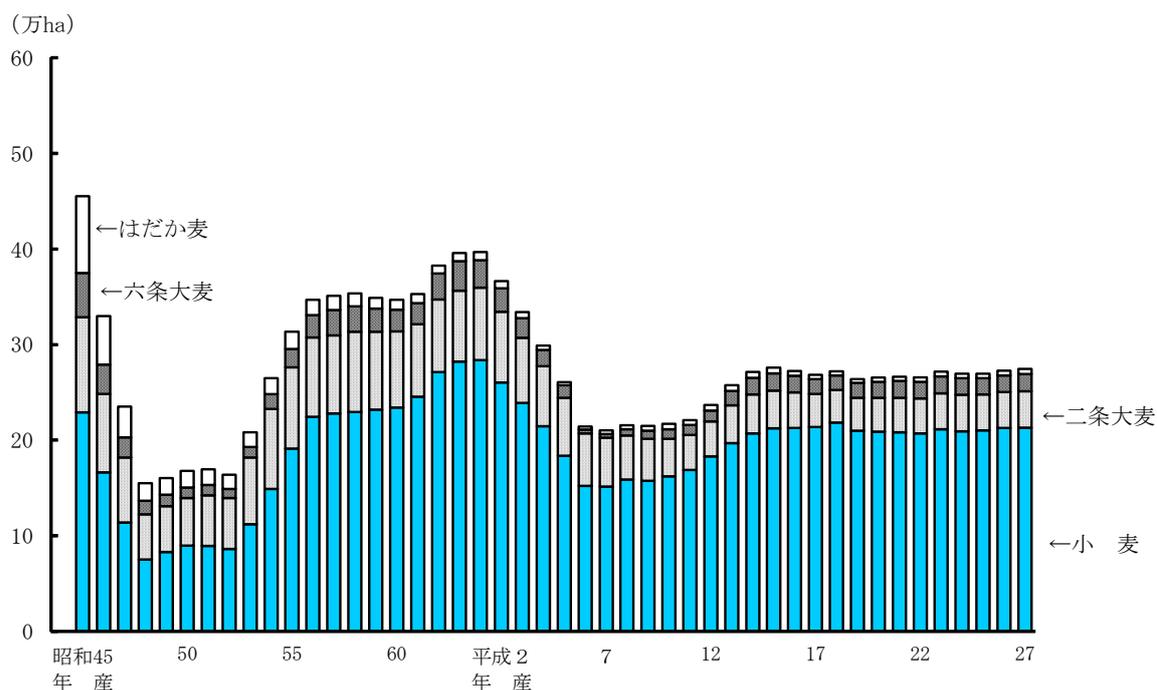
麦種別には、小麦は前年産とほぼ同数、二条大麦は300ha（1%）、六条大麦は900ha（5%）それぞれ増加し、はだか麦は50ha（1%）減少した。

作付面積の動向をみると、作付農家数の減少、水田裏作の減少等により昭和48年に15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたこと、米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には39万6,700haとなった。平成2年以降は水田裏作の減少等により再び減少し、平成7年には21万200haとなった。平成8年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移したが、平成14年以降はほぼ横ばいとなっている（図5）。

表8 平成27年産4麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面積	前年産との比較		作 付 面積	前年産との比較		作 付 面積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4 麦 計	274,400	1,700	101	171,300	2,600	102	103,100	△ 900	99
小 麦	213,100	500	100	115,100	1,500	101	98,000	△1,000	99
二条大麦	37,900	300	101	34,800	400	101	3,130	△ 50	98
六条大麦	18,200	900	105	16,400	900	106	1,820	110	106
はだか麦	5,200	△ 50	99	5,060	△ 40	99	141	△ 8	95

図5 4麦（子実用）作付面積の推移



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

小麦の作付面積は21万3,100haで、前年産とほぼ同数であった（表9）。

このうち、北海道は12万2,600haで、他作物への転換等により、前年産に比べ800ha（1%）減少した。

また、都府県は9万500haで、東海、近畿地域等において他作物からの転換等があったことにより、前年産に比べ1,300ha（1%）増加した。

イ 二条大麦

二条大麦の作付面積は3万7,900haで、九州地域等において増加したため、前年産に比べ300ha（1%）増加した（表9）。

ウ 六条大麦

六条大麦の作付面積は1万8,200haで、北陸地域等において他作物からの転換等があったことにより、前年産に比べ900ha（5%）増加した（表9）。

エ はだか麦

はだか麦の作付面積は5,200haで、九州地域等において減少したため、前年産に比べ50ha（1%）減少した（表9）。

表9 平成27年産4麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	4麦計			小 麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦			
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比	
ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%		
全 国	274,400	1,700	101	213,100	500	100	37,900	300	101	18,200	900	105	5,200	△	50	99
北 海 道	124,200	△ 1,000	99	122,600	△ 800	99	1,640	△ 100	94	-	-	nc	12	4	150	
都 府 県	150,100	2,600	102	90,500	1,300	101	36,300	500	101	18,200	900	105	5,180	△	60	99
東 北	8,240	△ 30	100	7,040	△ 90	99	x	x	x	1,200	60	105	x	x	x	
北 陸	10,400	400	104	182	△ 74	71	6	△ 3	67	10,200	460	105	-	-	nc	
関 東・東 山	38,400	△ 100	100	20,800	△ 200	99	12,400	△ 200	98	5,140	280	106	50	△	6	89
東 海	16,500	600	104	15,900	600	104	9	x	x	641	46	108	2	0	100	
近 畿	10,600	400	104	9,430	440	105	173	11	107	x	x	x	x	x	x	
中 国	5,410	360	107	2,020	190	110	2,830	100	104	x	x	x	454	40	110	
四 国	4,580	260	106	1,860	180	111	x	x	x	-	-	nc	2,700	80	103	
九 州	56,000	800	101	33,300	300	101	20,800	500	102	x	x	x	1,850	△	70	96
沖 縄	13	△ 10	57	13	△ 10	57	-	-	nc	-	-	nc	-	-	nc	

3 かんしょ

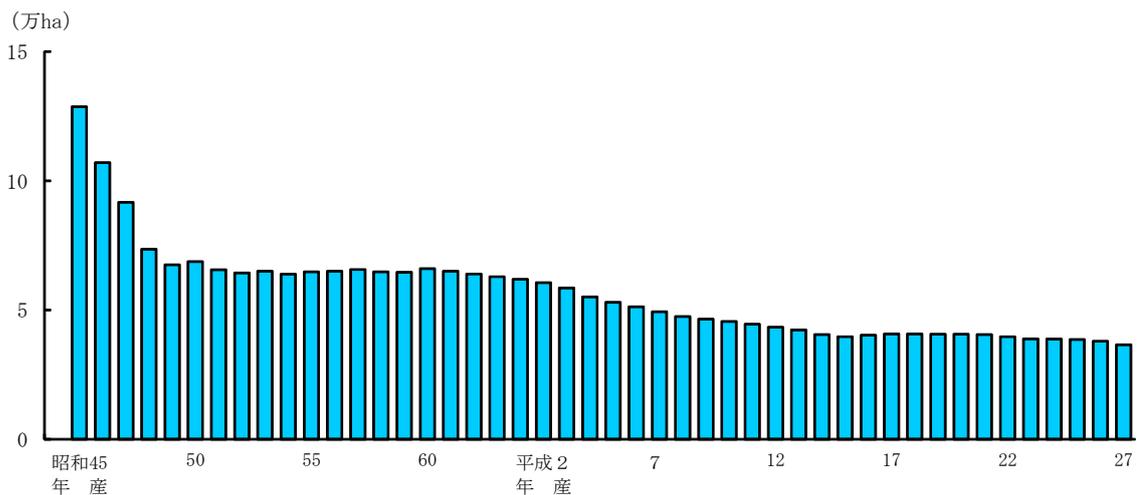
平成27年産かんしょの作付面積は3万6,600haで、前年産に比べ1,400ha（4%）減少した（表10）。

作付面積の動向をみると、昭和50年以降は漸減傾向で推移している（図6）。

表10 平成27年産かんしょ作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	36,600	△ 1,400	96	2,710	△ 100	96	33,900	△ 1,300	96
北 海 道	16	2	114	5	△ 1	83	11	3	138
都 府 県	36,500	△ 1,500	96	2,710	△ 90	97	33,800	△ 1,400	96
東 北	209	△ 14	94	28	△ 4	88	181	△ 10	95
北 陸	686	△ 10	99	89	1	101	597	△ 11	98
関 東・東 山	12,300	△ 100	99	353	△ 8	98	12,000	0	100
東 海	1,550	△ 60	96	92	△ 2	98	1,460	△ 60	96
近 畿	766	△ 26	97	391	△ 9	98	375	△ 17	96
中 国	855	△ 25	97	174	0	100	681	△ 25	96
四 国	2,000	△ 20	99	253	△ 11	96	1,740	△ 20	99
九 州	17,900	△ 1,200	94	1,330	△ 60	96	16,600	△ 1,100	94
沖 縄	263	0	100	2	0	100	261	0	100

図6 かんしょ作付面積の推移



4 そば（乾燥子実）

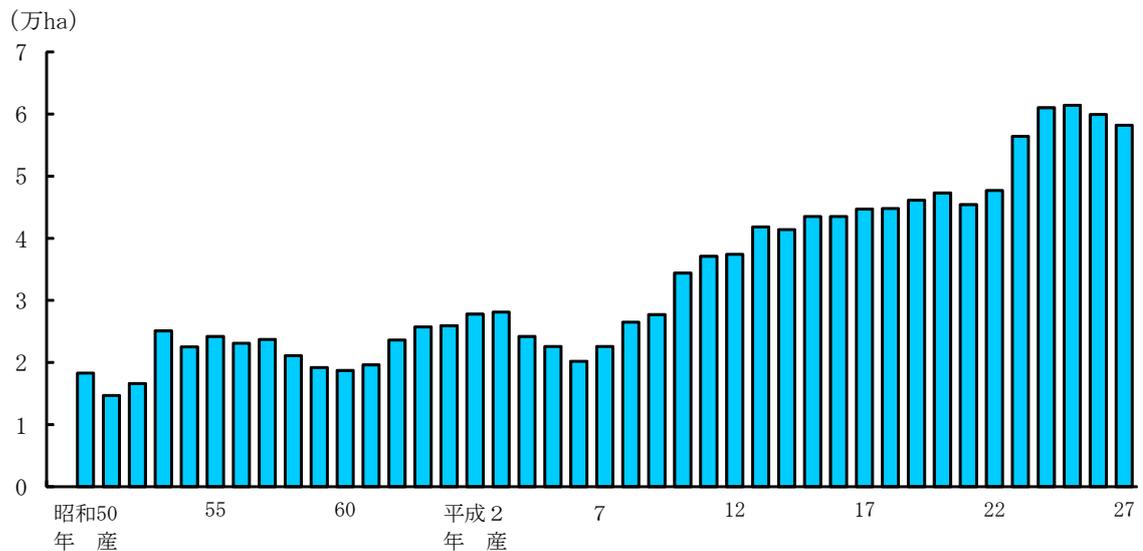
平成27年産そばの作付面積は5万8,200haで、前年産に比べ1,700ha（3%）減少した（表11）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4年から平成6年までは減少した。平成7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移しているが、平成26年及び平成27年は減少した（図7）。

表11 平成27年産そば（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	58,200	△ 1,700	97	36,100	△ 1,400	96	22,200	△ 200	99
北 海 道	20,800	△ 800	96	8,570	△ 690	93	12,300	0	100
都 府 県	37,400	△ 900	98	27,500	△ 700	98	9,890	△ 210	98
東 北	15,400	△ 400	97	12,000	△ 300	98	3,400	△ 50	99
北 陸	6,080	△ 60	99	5,540	△ 90	98	545	32	106
関 東・東 山	10,100	△ 300	97	5,500	△ 170	97	4,570	△ 150	97
東 海	573	28	105	467	45	111	106	△ 17	86
近 畿	834	△ 117	88	x	x	x	x	x	x
中 国	1,650	10	101	1,420	10	101	227	△ 2	99
四 国	151	△ 14	92	78	△ 4	95	73	△ 10	88
九 州	2,540	△ 110	96	1,660	△ 90	95	x	x	x
沖 縄	52	10	124	-	-	nc	52	10	124

図7 そば（乾燥子実）作付面積の推移



5 豆 類（乾燥子実）

(1) 大 豆

平成27年産大豆の作付面積は14万2,000haで、水稻、小豆等からの転換により、前年産に比べ1万400ha（8%）増加した（表12）。

作付面積の動向をみると、外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移していたが、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加した。その後、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。平成7年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移していたが、平成16年以降は上下動のある動きとなっている（図8）。

(2) 小 豆

平成27年産小豆の作付面積は2万7,300haで、前年産に比べ4,700ha（15%）減少した（表12）。

このうち、北海道における作付面積は2万1,900ha（全国の約8割）で、大豆、いんげんへの転換等により、前年産に比べ4,400ha（17%）減少した。

(3) いんげん

平成27年産いんげんの作付面積は1万200haで、前年産に比べ940ha（10%）増加した（表12）。

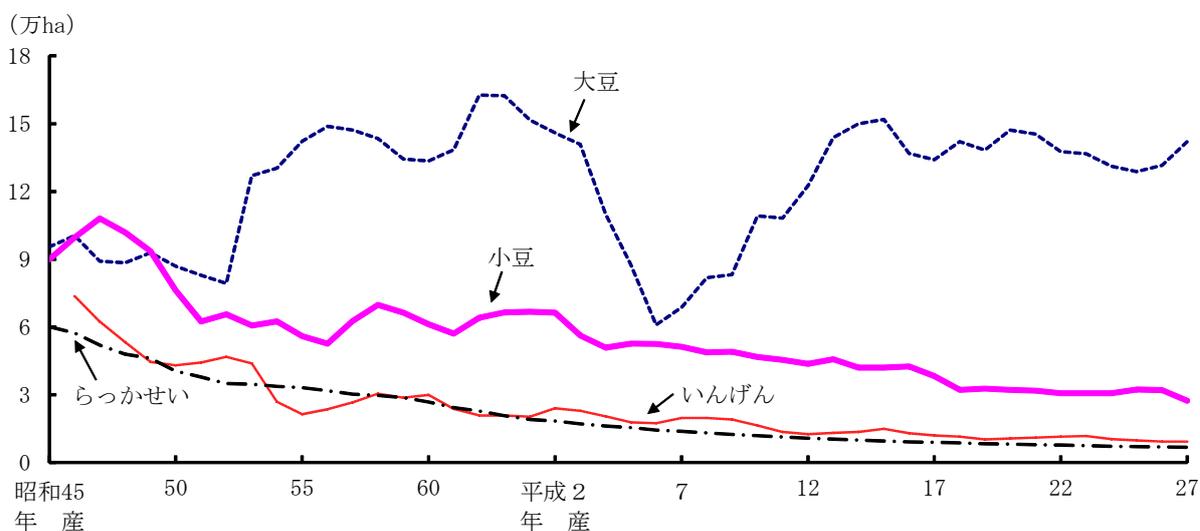
このうち、北海道における作付面積は9,550ha（全国の約9割）で、小豆からの転換等により、前年産に比べ1,010ha（12%）増加した。

(4) らっかせい

平成27年産らっかせいの作付面積は6,700haで、前年産に比べ140ha（2%）減少した（表12）。

このうち、千葉県の作付面積は5,240ha（全国の約8割）で、前年産に比べ60ha（1%）減少した。

図8 豆類（乾燥子実）作付面積の推移



7 茶

平成27年茶の栽培面積は4万4,000haで、前年に比べ800ha（2%）減少した（表14）。

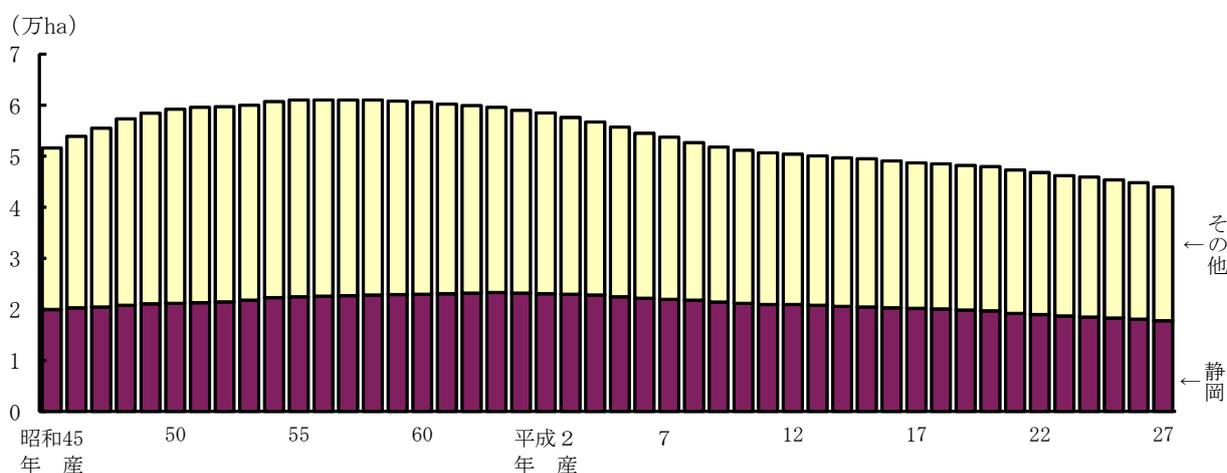
栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している。

なお、主産地である静岡県においても、近年全国と同様に漸減傾向で推移している（図10）。

表14 平成27年茶栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比
茶	ha	ha	%
	44,000	△ 800	98

図10 茶栽培面積の推移



8 飼肥料作物

(1) 飼肥料作物の作付（栽培）面積

平成27年産飼肥料作物の作付（栽培）面積は107万2,000haで、前年産に比べ5万3,000ha（5%）増加した（表15）。

(2) 飼肥料作物のうち飼料用の作付（栽培）面積

平成27年産飼肥料作物のうち飼料用の作付（栽培）面積は97万5,200haで、前年産に比べ5万900ha（6%）増加した（表15）。

ア 牧草

牧草の作付（栽培）面積は73万7,600haで、前年産とほぼ同数であった。

イ 青刈りとうもろこし

青刈りとうもろこしの作付面積は9万2,400haで、前年産に比べ500ha（1%）増加した。

ウ ソルゴー

ソルゴーの作付面積は1万5,200haで、前年産に比べ700ha（4%）減少した。

エ 青刈り麦類

青刈り麦類の作付面積は9,150haで、前年産とほぼ同数であった。

オ その他青刈り作物（WCS用稲等）

その他青刈り作物の作付面積は4万500haで、前年産に比べ7,300ha（22%）増加した。これは、主にWCS用稲の作付けが増加したためである。

カ その他飼肥料作物（飼料用米等）

その他飼肥料作物の作付（栽培）面積は8万200haで、前年産に比べ4万5,700ha（132%）増加した。

これは、主に飼料用米の作付けが増加したためである。

表15 平成27年産飼肥料作物作付（栽培）面積

区 分	計			飼料用		
	作付（栽培） 面積	前年産との比較		作付（栽培） 面積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%
飼 肥 料 作 物 計	1,072,000	53,000	105	975,200	50,900	106
牧 草	747,200	△ 2,300	100	737,600	△ 2,000	100
青 刈 り と う も ろ こ し	93,000	400	100	92,400	500	101
ソ ル ゴ ー	26,200	△ 700	97	15,200	△ 700	96
青 刈 り 麦 類	60,200	2,000	103	9,150	△ 20	100
そ の 他 青 刈 り 作 物	41,900	7,300	121	40,500	7,300	122
れ ん げ	11,500	△ 300	97	49	△ 4	92
そ の 他 飼 肥 料 作 物	92,400	46,500	201	80,200	45,700	232

図11 飼肥料作物作付（栽培）面積の推移

